

奥能登原木しいたけ 「のとてまい」・「のと115」だより

令和2年度第3号
(通巻15号)
令和2年8月21日発行

<発行者> 奥能登原木しいたけ活性化協議会、石川県農林総合研究センター

ほだ木診断の結果は「概ね良好」 引き続き、直射日光を避け、風通し良く！！

7月16日から8月4日にかけて生産者のほだ場を巡回し、原木内部の菌の伸長状況を確認するほだ木診断を行いました。標高、西日の当たり方などほだ場の場所によって、ほだ木の状況は違います。再度、下記について確認し、**遮光シートなどで直射日光を避け、草刈りやほだ木の組み直しにより、風通しを良くすることを心がけましょう！**

1. 5月～6月は少雨だったため原木内部の菌の伸長は遅いものの、7月に入ってから長雨によりほだ木が濡れ、菌の伸長が挽回しつつあります。今後、**高温多湿が続くとトリコデルマ菌などの害菌が発生するので、定期的に確認**しましょう。

2. 原木内部の水分量が高く、菌糸が十分伸長できないため、植菌した形成菌周辺で菌糸が充満し発砲栓を持ち上げている様子が見られました。**1段に並べる本数を減らし原木の間隔を広げる、周辺の下草を刈るなどにより、風通しを確保**しましょう。



原木の間隔が狭く、隣同士が
ひっついて風遠しが悪くなっています



1段に並べるほだ木の本数を
減らすと風通しがよくなります！

3. 被陰が不十分で原木に直射日光が当たっている場所では、形成菌の乾燥が極端に進み枯死しているものも見られました。**夕方、太陽が傾いて原木に直接日光が当たっていませんか？昼間だけでなく、西日が当たっていないかも確認**しましょう！



被陰用の遮光シートが短かく西日が
当たったり、遮光シートが原木に接触
したりしています



西側は遮光シート張り出しを長くしたり、側面に
支柱を立てたり、原木との間に1m程度の隙間
を空け直接触れないようにするなどしましょう！

※裏面に続きます。

令和3年春植菌分の原木の手配はお済みですか？

◇ 自分で原木を伐採、調達される方

- ・伐倒: 10月下旬頃～翌春芽吹き前まで
- ・玉切り: 伐採後20～40日後を目途に、葉が巻いたら行う
- ・伐採は2人以上で、事前に退避手順や作業者どうしの位置を確かめるなど、十分安全を確保し行いましょう。
- ・定期的な道具の手入れも忘れずに！



伐採の最適期は黄葉初期

◇ 斡旋原木の購入を希望される方

- ・協議会では、毎年、原木の購入斡旋を行っています。
- ・今年度は12月中に生産者への納品を目指し、伐採事業者との協議を進めています。
- ・詳細が決まり次第、JAを通じてご案内いたします。

県と市町では、協議会による斡旋原木を購入し、新たに栽培を始める方を対象に、原木購入に係る経費の一部の補助を行っています。しいたけ栽培を行っていない周囲の方への声かけをお願いします！

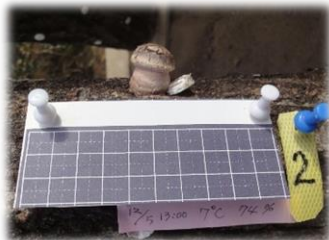
生産者を紹介！

山方正治さん(穴水町下唐川)

<生産規模>

R2春伏込数:550本(斡旋原木の購入)
有効ほだ木数:1,650本、ほだ場:1箇所
ビニールハウス:1棟(20m)、今秋40mハウスを建設予定
栽培品目:水稲130a、ナス200本(露地)、ミニトマト50本(ハウス)

定年退職を機に実家のある穴水町へ帰郷し、「水稲＋野菜＋原木しいたけ」の生産に取り組んでいます。芽切りが始まると、気温や湿度で変化するしいたけの成長スピードを記録するなど、工夫されています。



芽切りから3日目
(令和元年12月5日)
温度7℃、湿度74%(13時)



芽切りから28日目【8cmで収穫】
(令和元年12月25日)
温度12℃、湿度58%(12時)

「10月下旬～11月中旬にしいたけの芽となる原基が形成されるため、乾燥しないようほだ場の散水に気をつけています。また、単価の高い商品化を目指して、収穫のタイミングに注意しています。」とおっしゃっていました。

§お悔やみ§

のとてまり・のと115ブランド化の取組み黎明期に協議会会長を務め生産者への普及に尽力いただき、また自らも原木乾しいたけの栽培において活躍された 輪島市門前町表庄三さんが8月7日に逝去されました。謹しんでご冥福をお祈りいたします。